

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる

クリスマス、おめでとうございます。

クリスマスを迎え、皆様と皆様のご家庭に、神様の恵みが満ち溢れますようにお祈りいたします。

コロナの感染拡大によってやむを得ず会衆参加の礼拝が中止となり、クリスマス礼拝を共に捧げることができなくなって、とても残念に思います。けれども信徒さん皆の聖誕のお祝い、そして神様に感謝する心は変わらないものであると思います。神様も私たちのこのような心をご存じで、祝福をもって報いてくださるでしょう。

今日イエス様の誕生日を迎え、とくに短い物語を通して「イエス様がこの世に来られた意味」を皆さんと共に考えてみようと思います。童話のようなものであるから、気楽にお聞きくだされば、ありがたいです。

物語は、皆さんのご存じの天使ガブリエルから始まります。天使ガブリエルの役目は、神様のみ旨を人々に伝えることです。いわばメッセンジャーです。天使ガブリエルは、マリアにイエス様のご誕生を、エリザベトには洗礼者ヨハネの誕生を、ダニエルにはイスラエルを脅かしていたギリシャと諸強国は破滅になるというお報せをしました。そして他の人々にも色々なことをお知らせしました。

どこかで天使ガブリエルが神様のみ旨を人々に伝えることには困難が多かったです。それは、人々が神様のみ旨をよく聞き取れなかったからです。なぜでしょうか。メッセンジャーの役目を上手にやりたかった天使ガブリエルは、色々なことをよくよく考えました。そして、ついにそれは、人々が神様をよく知らないからであると思うようになりました。

それでは、どうすれば人々に神様をよく分かるようにすることができるでしょうか。天使ガブリエルはまた考え込みました。長い間考えた末、天使ガブリエルは一つのことを考え出しました。それは、神様の姿を絵に描いて伝えることでした。神様の姿を描いて見せれば、人々がすぐ見分けられるからです。それから天使ガブリエルは神様の姿を描き始めました。けれどもこの仕事は思ったより難しかったです。神様は見えません。神様をご自分の姿で人々を創造しましたが、神様は男でも女でもなく、老人でもありません。しかも、神様は善であり、真理であり、美しさであり、愛であり、光であり、全能者であります。このような神様をどうやって描くことができるでしょうか。

また、天使ガブリエルは長い間深く考え込みました。そのなっているある日、ふと良い方法が思い浮かびました。それはまず、神様についての考えが浮ぶたびごとに、そのイメージを描いておくことでした。そして最後にそれをまとめて一つの絵として描けば、よさそうでし

た。天使ガブリエルは幸せな気持ちになって楽しく絵を描き始めました。こうやって絵を描いていくうちに天使ガブリエルも神様について今まで知らなかったこともたくさん分かるようになりました。そして、神様は絶えず創造なさる方であり、人々に対する愛は決して変わらない、ということも深く感じるようになりました。天使ガブリエルは数百万枚の画用紙に神様の姿を描きましたが、描くたびごとに毎回新しい気持ちを持つようになりました。

神様を描いた絵は天使ガブリエルの部屋いっぱいになりました。それである日、天使ガブリエルはたくさんあるその絵を片付けるようになりました。古いほこりも払い落とさなければなりません。それで窓をぱっと開きました。ところが急に激しい風が吹き出しました。その風によって部屋にあった神様を描いた画用紙が全部飛んでいってしまいました。天使ガブリエルは「だめ、だめ」と叫びましたが無駄でした。画用紙は風に乗って飛んでいきました。その画用紙はどこまで飛んでいったのでしょうか。その画用紙は神様の創造なさった地、ことに人々が住んでいるところに飛んでいきました。天使ガブリエルは戸惑いましたが、一方では、その絵を通して人々が神様を少しでもよく分かるようになるであろう、と自分で慰めました。

人々は天使ガブリエルが描いた神様の絵を見て、神様について考えるようになりました。そして、その絵を解釈し始めました。ある人は「神様は太陽のような方である」と言い、またある人は「神様は牛のように力の強い方である」と言いました。そして皆、自分が神様を完全に知っていると言いつ張りました。ある人たちは、天使ガブリエルの絵に似ている大きな像を作り、神殿に納め、礼拝をささげることもしました。ところで、人々が言い張っているのは、神様の数多くの特徴の一部に過ぎない、ということに気づいた人は誰もいませんでした。それだけではありません。人々は自分の意見が正しいことであると証明するために喧嘩もしました。ある人たちにとっては、自分の考えを正当化するために天使ガブリエルの絵を利用したりもしました。

神様は人々のこのような姿をご覧になって残念に思われました。それで、信仰深い人たちを選んで、彼らにご自分がどんな存在であるか教えてくださいました。彼らは人々に行って神様のみ言葉を伝えましたが、人々は自分の考えを変えようとしませんでした。ひどいことに彼らを迫害したりもしました。そして人々は続いて神様の姿を様々な方法で想像しました。ある人は、神様を裁きばかりなさる恐ろしい方であると思ったりもしました。そして、「神様はいない」と言う人々も生じるようになりました。ある人々は、神様は人々の考えや想像に過ぎないと言ったりもしました。多くの人々が神様を分からないまま遠ざけたりもしました。このような様子をご覧になった神様は心が痛くなりました。それでこのように決心なさいました。

「私が人々の住んでしるところに降りていかなければならない。人々が私を直接見て、触って、私の言葉を聞けば、私が誰なのか分かるであろう。」

天使たちは皆びっくりしました。神様の絵を一生懸命に描いた天使ガブリエルもびっくりしました。想像すらできなかった大変なことだったからです。その後、どうなったのか、皆さんはご存知でしょう。「神の御子」が人間の姿でお生まれになったのです。

この世に来られたイエス様は人々を癒してくださり、救いのみ言葉を教えてくださいました。そして、死と復活を通してこの世での死は恐れるものではない、ということも教えてくださいました。それで私たちはイエス様によって希望を持つようになりました。それで使徒パウロはこの出来事がどのような意味があるのか、そして神様の意志は何なのかへブライ書にこのように記しました。

「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。」(へブ 1:1-3)

今、私たちはコロナ禍によって、多くの困難を経験しながら生きています。そして、この困難の中に神様は本当に存在するのかという疑問を持ったりもします。まるで暗闇の中を歩いているように感じられる長いコロナ禍の状況の中に疲れて、神様のみ言葉をおろそかにしたりもします。けれども、神様は私たちの困難をご存じでおり、私たちがこの困難を乗り越えられるように助けてくださる、ということは忘れてはいけません。そして、イエス様が弟子たちに「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28:19)とおっしゃった約束は私たちにも有効であり、今日にもその約束は守られるでしょう。クリスマスを迎え、私たちはこのような信仰を持って、愚直に生きていきましょう。そうすれば、きっと神様は私たちにこのコロナ禍の状況を乗り越え、恵みの人生に向かっていくように導いてくださるでしょう。

もう一度、クリスマスを迎え、神様の限りない恵みが皆様と皆様のご家庭に満ち溢れますようにお祈りいたします。